株式会社明和製作所 Tsukihara Kiyoshi
代表取締役社長 **月原 潔**

東北リース株式会社 Kanno Hiroaki
代表取締役会長ＣＥＯ **菅野 浩昭**

転圧機のスペシャリストとして、日本国内だけでなく世界へとシェアを広げる明和製作所。2020年に75周年を迎えた同社の月原社長が、宮城の地場レンタル会社・東北リースの菅野会長と今後の展望について語り合った。

75年続く転圧機のスペシャリスト

菅野 本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。御社は昨年10月に創業75周年を迎えられたということで。それだけ長く続いているというのは、研究を重ね、顧客のニーズに応え続けてきた結果なのだと思います。

月原 ありがとうございます。弊社は、創業が終戦の年に当たる１９４５年になります。私は３代目になりますが、初代社長がクボタの販売店から独立して埼玉県の川口市に会社を起こしました。当時の日本には、エンジンを搭載した転圧機がありませんでした。エンジニアとして農業系の機械に携わっていた初代がヨーロッパで存在を知り、日本に合うように改良し発展させたものを開発したことが始まりです。そこから一貫して転圧機のスペシャリストとして開発を続けています。

菅野 弊社は多数の建設会社と取引をしています。その中で、締固め機械のスペシャリストである明和製作所の製品は安心して勧めることができます。われわれとしても、御社の機械に対する思いを感じ、非常に信頼しています。

月原 時代の流れとともに機械は進化し、開発の視点も変わります。ユーザーの声が一番重要ですから、ニーズに合った商品開発を心がけています。例えば低騒音の環境に優しい機械。夜間工事の際に近隣に迷惑をかけないよう、弊社の扱う低騒音のプレートコンパクターには特許を取っているものもあります。また、軽量化にも力を入れていて、世界で最も軽い24キロのプレートも扱っています。軽量化を進める一方で、作業の効率化に向けた高打撃のものもあり、用途に合わせた開発をしています。

ユーザーに合わせ細かいカスタマイズも

低騒音（防音）ランマ

菅野 国内だけでなく海外展開も積極的とのことですが。

月原 はい、売上構成比率は国内が70パーセント、海外が30パーセントほどになります。海外と国内では傾向も違っていて、海外では比較的重量のある機械が使用されます。弊社では、国や地域ごと、使う人に合わせたカスタマイズを重ねています。

菅野 弊社が卸しているユーザーからも非常に評判がいいです。バリエーションが多く、現場の望みを叶えてくれるメーカーということで、ユーザーに対してもアピールでき

ます。また、他のメーカーにはないような軽量化の機械も扱っているのは大きな強みですよね。軽量化のきっかけは何かあったのでしょうか。

月原　一つは高齢化への対応です。軽量のものであれば一人でも持ち運ぶことができます。また、これからは老朽化が進むインフラのメンテナンスの時代になると思っています。従来の機械では、細かい場所の維持補修には適しておらず、熟練の職人が無理やり使用していました。そういった場所での作業に使用できるようにという要望に応えた形になります。

世界最軽量の24kgのプレート

メンテナンスの時代に対応した商品開発へ

菅野　今後は維持補修が主流になるとのことですが、御社としてもそういった方向性で商品開発を進めていくのでしょうか。

月原　そうですね。日本の舗装率は80％と高く、そのうち95％がアスファルト舗装です。アスファルトの良さは補修がしやすいところにありますが、定期的なメンテナンスが必要になってきます。また、今後は無電柱化の話も出てくるでしょう。そうした中で、われわれの機械を有効的に使っていただけたらと思います。

菅野　仙台でも無電柱化は進んでいます。工事は夜間に行うことが多く、御社の扱う低騒音の機械がお勧めできます。維持補修の話でいえば、小型の無人の機械があればいいですね。

月原　ある程度なら無人化も可能かもしれませんね。弊社は『誠実とチャレンジ精神』をモットーにしていますから検討したいと思います。他の企業との差別化にもなりますしね。

菅野　東北での事業展開はどうお考えでしょうか。

月原　おかげさまで、東北でも多くのシェアをいただいております。東日本大震災からもうすぐ10年になりますが、復興はまだ終わったわけではありません。被災地の皆さまに寄り添った商品開発を進めていくという気持ちはずっと持ち続けていきたいですね。

菅野　ユーザーに配慮するという姿勢は、地場レンタルとしても心強い限りです。今後も期待しております。本日はありがとうございました。

■つきはら　きよし
ペパーダイン大学経済学部卒業後、外資系企業勤務を経て1988年に明和製作所に入社。営業、工場勤務、輸出業務を担当し、2001年に同社３代目の代表取締役社長に就任

■かんの ひろあき
1994年８月東北リース代表取締役、2019年７月同社代表取締役会長就任。宮城県建設機械リース業協会前会長、日本建設機械レンタル協会宮城支部前支部長、宮城県レンタカー協会中央支部の理事、建設車両委員長